

2018年1月24日 全4頁

Indicators Update

2017年12月貿易統計

輸出数量は拡大基調を続けつつも、高水準でほぼ横ばい

経済調査部
研究員 廣野 洋太
エコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 2017年12月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+9.3%（市場コンセンサス：同+10.0%）と前月（同+16.2%）からプラス幅が縮小した。12月の税関長公示レートは112.48円/ドルと、前年比で見ると0.7%の円高水準であった。
- 輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.7%と3ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、電算機類の部分品や鉄鋼の輸出増を背景にEU向け（同+3.9%）が増加した。一方、押し下げ要因となったのは米国向け（同▲1.5%）とアジア向け（同▲1.0%）輸出だった。米国向けでは、自動車と自動車の部分品の減少が大きかった。アジア向けでは、半導体等製造装置と鉄鋼の減少が全体を押し下げた。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし注意点としては、米欧の金融政策の動向が挙げられる。米国では、Fedが金融引締めを着実に実行し続けており、ECBにおいても資産買い入れの一段の圧縮が2018年1月に始まっている。両中銀の金融政策正常化が米国、欧州経済の下押し圧力となるリスクには留意が必要である。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2017年								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
輸出金額	7.5	14.9	9.7	13.4	18.1	14.1	14.0	16.2	9.3
コンセンサス									10.0
DIR予想									10.0
輸入金額	15.2	17.9	15.5	16.3	15.3	12.1	19.0	17.2	14.9
輸出数量	4.2	7.5	4.0	2.6	10.4	4.8	3.8	5.5	4.5
価格	3.2	6.9	5.5	10.5	7.0	8.9	9.8	10.1	4.6
輸入数量	4.9	5.4	4.2	3.2	2.4	▲0.2	3.2	2.6	5.9
価格	9.8	11.8	10.8	12.6	12.6	12.4	15.3	14.2	8.5
貿易収支	4,792	▲2,064	4,414	4,220	1,095	6,640	2,807	1,122	3,590
税関長公示レート	110.92	111.47	110.91	112.41	110.77	109.48	112.40	113.54	112.48

（注1）貿易収支は億円。税関長公示レートは円/ドルレート。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

輸出金額は前月比+1.3%、貿易収支は7ヶ月連続の黒字

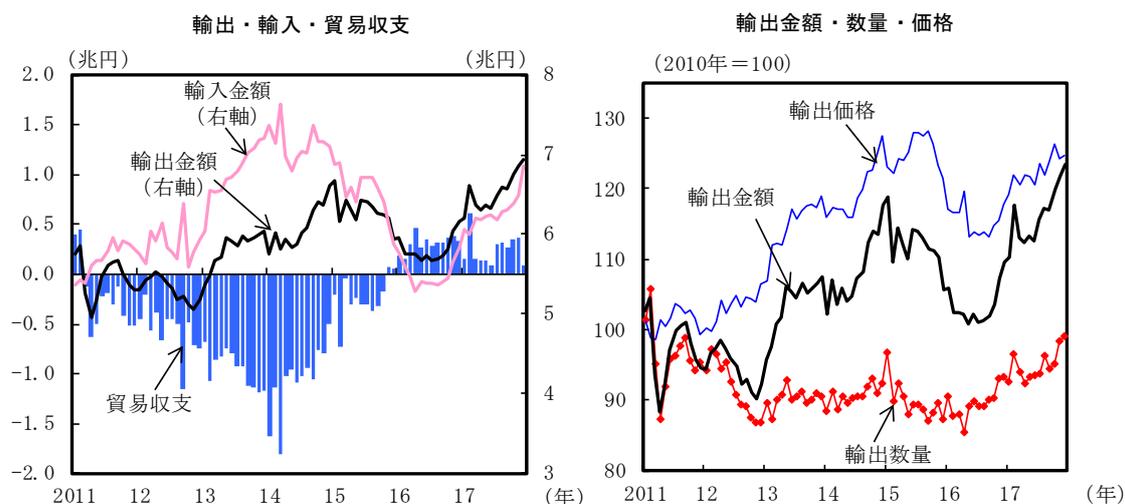
2017年12月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+9.3%（市場コンセンサス：同+10.0%）と前月（同+16.2%）からプラス幅が縮小、輸入金額も同+14.9%と前月（同+17.2%）からプラス幅が縮小した。貿易収支は+3,590億円と7ヶ月連続の黒字となった。

輸出金額を数量要因と価格要因に分解すると、数量要因は前年比+4.5%と前月（同+5.5%）からプラス幅が縮小した。価格要因についても同+4.6%とプラス幅が前月（同+10.1%）から縮小している。

輸入金額は、数量要因が前年比+5.9%とプラス幅が前月（同+2.6%）から拡大した。価格要因については同+8.5%と前月（同+14.2%）からプラス幅が縮小している。原油価格の上昇を背景に輸入価格は上昇基調にあるが、円高を背景にそのペースは鈍化している。なお、12月の税関長公示レートは112.48円/ドルと、前年比で見ると0.7%の円高水準であった。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比+1.3%、輸入金額は同+4.4%となった結果、貿易収支は868億円の黒字となり、前月（2,896億円の黒字）から黒字幅が大幅に縮小した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

電算機類の部分品を中心としてEU向け輸出が増加

輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+0.7%と3ヶ月連続で増加した。輸出数量は拡大基調を続けつつも、高水準でほぼ横ばいとなっている。

地域別に見ると、全体を押し上げたのはEU向け輸出（前月比+3.9%）であった。EU向けでは、鉄鋼と電算機類の部分品の増加が全体を押し上げたようだ。電算機類の部分品は2017年11月に大幅な減少となっており、反動があったものとみられる。

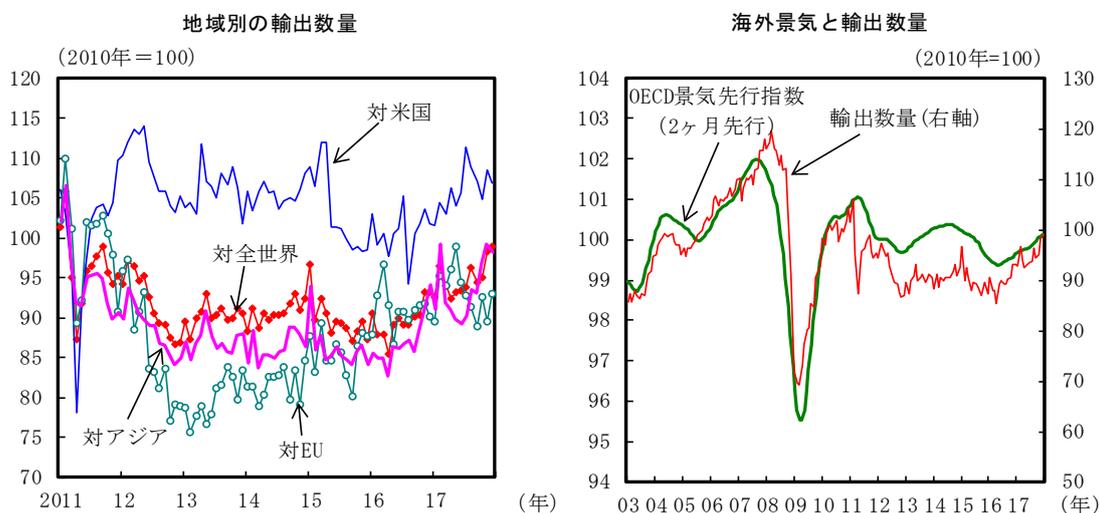
一方、押し下げ要因となったのは米国向け（前月比▲1.5%）とアジア向け（同▲1.0%）輸出だった。米国向けでは、自動車と自動車の部分品の減少が大きかった。米国内の自動車販売は、高水準を維持しているものの増勢は鈍化しており、日本からの輸出についても足踏みが見られる。アジア向けでは、半導体等製造装置と鉄鋼の減少が全体を押し下げた。

輸出数量の見通しは緩やかな増加基調

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。米国経済は回復基調にある。高水準の企業マインドを背景にした設備投資がけん引役となり、今後も堅調な推移となるだろう。2017年12月に決まった米国の法人減税も追い風となり、米国向け輸出は緩やかに増加する見込みである。また、欧州経済は個人消費を中心にバランスの良い景気拡大局面へ移行しているため、EU向け輸出についても拡大が見込まれる。

注意点としては、米欧の金融政策の動向が挙げられる。米国では、Fedが金融引締めを着実に実行し続けており、米国経済の下押し圧力となる可能性がある。また、Fedの金融引締めに伴う新興国からの資金流出も危惧されるだろう。また、ECBにおいても資産買い入れの一段の圧縮が2018年1月に始まっている。資産の買い入れ期間は延長されており、金融政策の正常化は緩やかに行われる可能性が高いが、EU経済の下押し圧力となりうる点には留意が必要である。

図表3：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



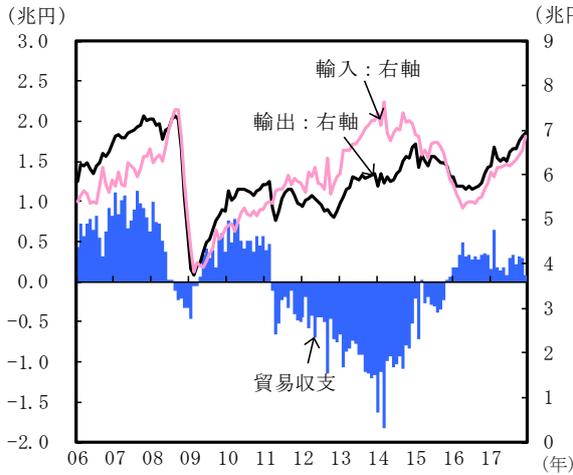
(注1) OECD景気先行指数(CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

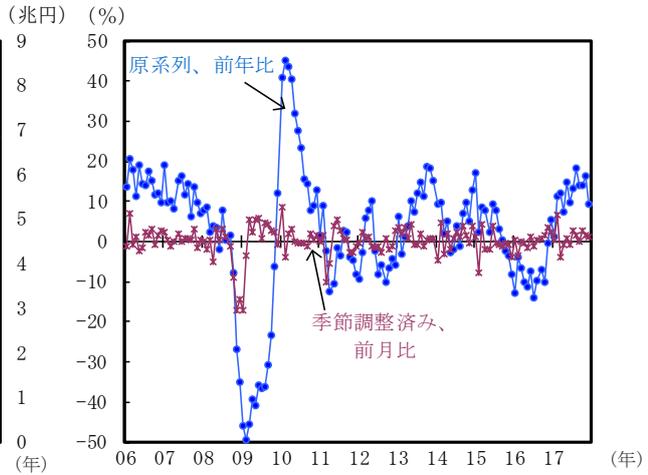
概況

輸出入と貿易収支（名目、季節調整値）

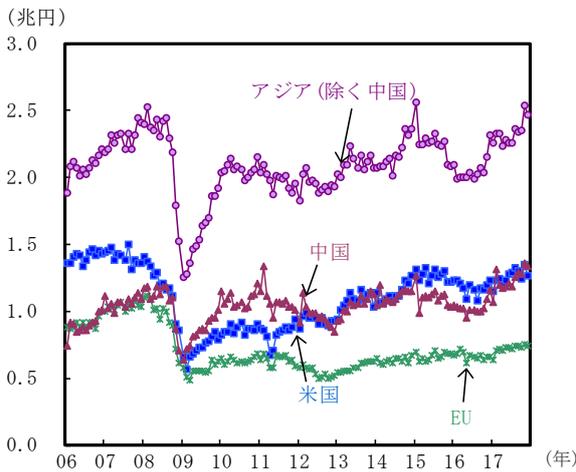


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率（名目）

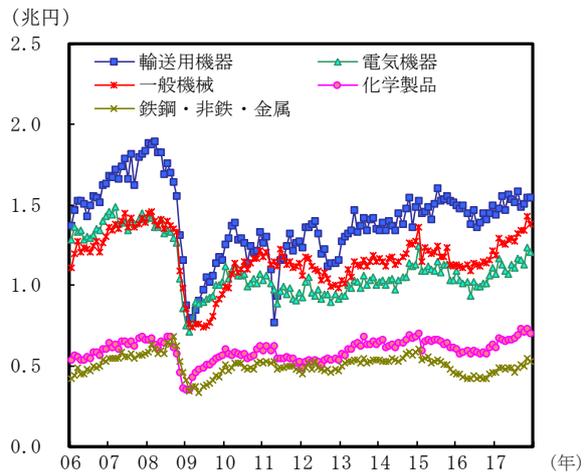


主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）

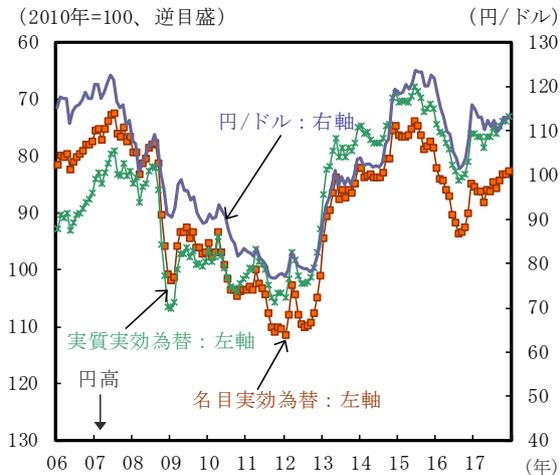


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）



為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件

